

つりびとジェレミーさん のはなし



ベアトリクス・ポッター さく・え

おおくぼ ゆう やく

つりびとジェレミーさんのはなし



ベアトリクス・ポッター さく・え
おおくぼゆう やく



ステファニーへ
いとこの Bより



むかしむかし つりびとジェレミーさんという かえるが おりました。 すまいは
いけの ほとり、 キンポウゲに かこまれた じめじめした こやです。



くらはも、うらぐちへ つづく ろうかも、みずで びちゃびちゃ つるつる。
けれども ジェレミーさんは おみあしを ぬらすのが すきなのです。だれに
おこられるでもなし、かぜを ひくでもなし！



あるとき おもてをみると、とっても うきうきしてきまして。だって めの
まえで おおつぶの あめが いけに ぱしゃぱしゃ ふっているんですから ——



「みみずでも つかまえて、 つりにでも でかけて、 ばんごはんに もろこでも
1さらぶん とるか。」と つりびとジェレミーさん。「5ひきよりも おおく とれ
たら しりあいでも まねるか。 じじがめトレミーさんに いもりやアイザックさま
だな。 まあ、 じじがめさんは やさいしか くわんけども。」



ジェレミーさんは あまがっぱを はおって ぴかぴかの あまぐつを はきました。
さおと かごを とって、 ぴょーん ぴょーんと おおきく はねながら こぶ
ねを とめてあるところへ むかいます。



それは まるく みどりの こぶねで、 ふつうの スイレンの はっぱと みわけ
が つきません。 いけの まんなか みずくさに くくりつけてあったのです。



ジェレミーさんは アシのくきを てにして、 ふねを みずの ひらけたところへ おしうごかしていきました。「うむ、 もろこには うってつけの つりばが あるな。」



ジェレミーさんは くきを へどろに つきたて、 そこへ こぶねを とめます。
そのあと あぐらを かいて つりぐの したく。 おきにいりの あかい うき。
さおは じょうぶな くさの くき。 つりいとは じょうもので しろげの うま
の ながい かみ。 さきに うねうね ちいさな みみずを とりつけました。



あめが ぽつぽつ せなかに おちるなか、 こいちじかん じっと うきを みつめます。

「たいくつに なってきた。 ころらで おひるにでも したいかな。」と つりびとジェレミーさん。



いけのそこを ついて みずくさの あたりへ もどり、 かごから おひるを
とりだしました。

「ちょうちょの サンドイッチでも たべて、 にわかあめが やむまで ゆっくりで
も するかな。」と つりびとジェレミーさん。



そのとき でっかい げんごろうが スイレンの はのしたに あらわれて あまぐ
つの つまさきを ぐっと つまみました。

ジェレミーさんは かいていた あぐらを せばめて とどかないようにして、 ま
た サンドイッチを たべていきます。



ちょちょこ なにかが いけのわきの イグサのあたりで かさかさ ばしゃばし
や うごきまわっていました。

「ねずみじゃあ ないな、 ぜったい。」と つりびとジェレミーさん。「どうも こ
こから はなれなならんかな。」



ジェレミーさんは ふねを つきうごかして ちょっと ひきかえし、 えさを た
らしました。すると いれるなり かみついてくるものが あって、 うきから ぐ
いぐい ひきが つたわってきまして！

「もろこ！ もろこだな！ こっちのもんだな！」と つりびとジェレミーさんは こ
えを はりあげ、 さおを ひっぱりあげます。



ところが なんとも まったく びっくり！ ふっくら すべすべ もろこのかわりに ジェレミーさんが つりあげたのは、 はりだらけの とげうお、 とんがりジャックくんでした！



そのとげうおは こぶねで じたばた、 あげくに ちくちく ぴちぴち。 いきぎ
れするや また みずに とびこんでしまつて。



みていた こざかなの むれが あたまを のぞかせ、 つりびとジェレミーさんをおおわらい。



それから こぶねの へりに すわったまま やるせなく ー いたむ ゆびを
なめ、 みずのなかを のぞいていると ー もおっと ひどいことが おこりま
して。 ジェレミーさんが あまがっぱを はおってなかったら ほんとうに おそろし
いことに なってたかも！



すんごく でっかい ますが あらわれて ー ざばっ ー ばばっ ー ば
ー ば ー ば! みずしぶき ー そして ジェレミーさんを あむっと
くわえて 「あう! うわ! あああ!」 ー と、 そのあと また ひるがえって
とびこんで いけのそこへ ずぶずぶずぶ!



とはいえ ますは あまがっぱの あまりの まずさに 30びょうと たたず は
きだして、 のみこまれたのは ジェレミーさんの あまぐつだけでした。



ジェレミーさんは みなもに むかって ぴゅうん、 にげるさまは まるで たん
さんを あけたときの せんと あわみたいで。 いけの はしまで ぜんりよくで
およいでいきました。



とにかく たどりついた きしを よじのぼって、 ずたずたの あまがっぱを き
たまま くさちを めけて ぴよこぴよこ うちへ いちもくさん。



「よかった、あれがかわかますじゃのうて！」と つりびとジェレミーさん。「さ
おと かごを なくしてもうた。 だが たいしたこたあない。 もう ぜったいに
つりになんか ゆくものかいな！」



ゆびの あちこちに ばんそうこうを はっていると ともだちが ふたりして ばんごはんに やってきました。 おさかなは だせませんが、 くらには ほかのものが あります。



いもりやアイザックさまは くろ・きん まだらの チョッキを きていました。



それと　じじがめトレミーさんは　あみぶくろに　はやさいを　もちこみです。



もろこの ごちそうの かわりに —— いなごの あぶりやき てんとうむしソー
スぞえを みんなで たべました。 かえるには たいへんな ぜいたくなのです。
けれども わ・た・しの くちには きっと あわないでしょうね！

(おしまい)

Original Text: *The Tale of Mr. Jeremy Fisher* (1906)

Original Author: Beatrix Potter (1866-1943)

つりびとジェレミーさんのはなし

<http://p.booklog.jp/book/33397>

著者：ベアトリクス・ポッター

訳者：大久保ゆう

発行：Alz

発行元情報：<http://p.booklog.jp/users/alz/profile>

※この翻訳は「クリエイティブ・コモンズ 表示 2.1 日本 ライセンス」
(<http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/>) によって公開されています。
上記のライセンスに従って、訳者に断りなく自由に利用・複製・再配布することができます。

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/33397>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/33397>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.